

**皮膚良性腫瘍、皮膚悪性腫瘍**

粉瘤・ほくろ・脂肪腫などの良性腫瘍から悪性黒色腫・基底細胞癌などの悪性腫瘍まで幅広く対応しております。

疾患によって、外科的手術、液体窒素による冷凍凝固療法、電気焼灼、炭酸ガスレーザーなどを選択します。植皮、皮弁やリンパ節生検をすることもあります。

**レーザー治療**

Qスイッチアレキサンドライトレーザーを用いて、原則として保険適応のある疾患の治療（太田母斑、後天性両側性太田母斑様色素斑、異所性蒙古斑、外傷性刺青など）を実施します。乳幼児から成人まで対応します。

**莓状血管腫（乳児血管腫）に対するプロプラノロール内服療法**

当院では2012年より臨床試験を実施しました。レーザーなど従来の治療より効果が高いです。2016年9月から保険診療で処方できるようになりました。当院では入院の必要は無く、外来で実施しています。

**円形脱毛症**

全身的疾患の精査の後、液体窒素、ステロイド外用、塩化カルプロニウム外用などを行います。重症例ではSADBEやDPCPによる局所免疫療法、ステロイド局所注射、ステロイドパルス療法などを行います。

重症例にはDPCPとアントラリン（anthralin）軟膏の併用療法の臨床試験を実施中です。

**褥瘡**

細菌感染を伴う場合は抗生物質を投与し、必要な時はポケット切開や壊死組織の除去、および局所陰圧閉鎖処置も行います。

**乾癬**

P3の記事をご参照ください。

**水疱症**

天疱瘡や類天疱瘡の重症例には、ステロイド内服、免疫抑制剤内服、免疫グロブリン大量療法などを実施できます。

全身麻酔や入院が必要な手術にも対応  
最新知識のもと、多様な治療法を提供

**多汗症**

塩化アルミニウム外用や抗コリン薬内服の他に、腋窩で重度の場合はボトックス注射を行います。

**湿疹、皮膚炎群**

アトピー性皮膚炎はガイドラインに沿って、皮膚症状に対し適切な治療をします。

重症例にはアトピー性皮膚炎やじんましんの生物学的製剤を用いることもあります。

接触皮膚炎、薬疹などのアレルギー疾患は、その原因を究明するため、パッチテストや皮内テストやDLSTを積極的にしています。金属パッチテストやパッチテストパネルも扱っています。

**光線療法**

ナローバンドUVBで、尋常性乾癬、尋常性白斑、皮膚悪性リンパ腫などの治療を行います。

**内臓疾患に伴う皮膚病変**

閉塞性動脈硬化症、糖尿病、膠原病、血管炎などは他科と連携して、最適な治療をします。

**陥入爪**

外科的治療、ワイヤ法、ガター法、巻き爪用クリップ、フェノール法などを行います。

**舌下免疫療法**

スギ花粉症およびダニ抗原によるアレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法もできます。

**担当医師紹介**

- 部長 鑑 慎司 (かがみ しんじ)  
 医長 中馬 久美子 (ちゅまうん くみこ)  
 医員 岸 由利子 (きし ゆりこ)  
 医師 角田 麻衣子 (つのだ まいこ)  
 特別顧問 日野 治子 (ひの はるこ)